

野菜の作業

秋～冬期にかけての品目確保と来年の生産にむけての準備をしましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・ホウレンソウ ・シュンギク ・コマツナ ・ネギ ・地ダイコン ・ラディッシュ ・野沢菜 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・タアサイ ・チンゲンサイ ・ニンニク ・イチゴ など 	<p>ホウレンソウの特性と栽培 ホウレンソウは、直売所の定番野菜の一つとなっており3月～9月中旬頃まで作付け(は種)が可能です。 ホウレンソウは、代表的な長日植物で、春から夏にかけては特に抽だいしやすくなるので、晩抽性品種の選定が重要です。逆に秋まきは短日、低温期になるため栽培が容易で生産も比較的安定する時期です。</p> <p>また、生育適温もやや低温を好み10 前後まで成育し、0 以下でも枯死しないことから露地栽培でも11月頃まで出荷が可能となります。さらに被覆資材等で保温をすることによりそれ以上に遅くまで出荷が可能となりますので挑戦してみてもいかがでしょうか。</p> <p>作期別の品種選定は、耐暑性・耐寒性、抽だいの程度、耐病性などを考慮し選定しますが、秋冬期に出荷するものは草姿として立性の強い品種を考慮することも重要となります。</p>
	<p style="text-align: center;">収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・ブロッコリー ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・カボチャ ・リーフレタス ・サツマイモ など 	

野沢菜の品種と栽培

野沢菜も冷涼な気象条件を好む野菜であり、一般の自家用栽培としては春まきと秋まきに大別されます。春まきは、極端な早まきは避け5月の下旬までとし、秋まきは病害対策も考慮し可能な限り遅まきとし、間引きの徹底などにより短期間に生育させ食味の良いものをつくります。

品種的には、一般には在来種が多いと思われませんが、県の野菜花き試験場では、根こぶ病抵抗性や食味、収量性などに優れた品種を育成していますので参考にしてください。

・「ニューシナノ」（平成8年品種登録）

「野沢菜信濃」の収量性、食味等を改善した品種で、根こぶ抵抗性を有する。在来種に比べ草姿は立性・多収性で、アクが少なく食味良い。初期成育が早いので10%程度の増肥を要する。

また、抽だいが遅いので春まきへの適応性が高い。

・「アントレス」（平成12年品種登録）

アントシアニン色素の発現が少なく漬け汁の濁りがなく加工適正に優れる。草姿は立性で収穫しやすく生育の揃いが良く多収性である。アクが少なく食味も良い。ニューシナノ同様やや多肥での管理を行う。

・「シナノシャッキリナ」（平成18年品種登録）

軟質系でシャキシャキした食感とアクが少ない食味のよい一代交配種。在来の「野沢菜」に比べ生育が早く葉茎長が長く多収性で、草姿が立性で葉色は淡くブルームの発生が少ない。

ダイコンの作型と品種

ダイコンは、古くから必需野菜として親しまれています。一般的に生育適温は20 前後とされ0 以下では凍害を受けることが多く、反面耐暑性もあまり強くないことから寒地では夏まきを中心とした栽培となっています。寒冷地での春まきは5/上～6/上、夏まきは6/下～8/中がは種期で、品種は大病総太り、Y Rくらま、献夏37号などがあります。

そんな中、近年話題となっている地大根は、早まきするとウイルス病が発生しやすくなることや大きくなりすぎることから8月下旬以降のは種が適するとされています。

近年の伝統的な野菜の人気が高まる中、上田にも「山口大根」がありますので、興味のある方はご検討ください。



農業豆知識

農薬使用の基礎知識 2

キュウリのうどんこ病とアブラムシが発生してしまい、早急に薬剤散布が必要となりました。ただ「どの殺菌剤や殺虫剤を使ったらいいだろうか」日頃より迷ってしまうことはありませんか。皆さんは長年の栽培の中で、どの病虫害がいつ発生し、いつ防除してよいか長年の経験の中で理解されていると思いますが、最近では新しい農薬の登場や依然購入していた農薬が失効していたり登録変更があったりと農薬を使用するには注意が必要です。

今年が多いアメリカシロヒトリ

病虫害防除の調査では、越冬世代成虫誘殺数は平年よりかなり多い状況で8月下旬より9月上旬の幼虫発生及び被害が多くなることが予想されます。雌は交尾後産卵し、およそ7～10日後にふ化が始まります。ふ化後10～12日の間に糸を吐いて巣をつくり、その中で過ごすので、見つけ次第被害枝を巣ごと切り取り、焼却等により処分することが防除の第一歩です。

ふ化後、日数お経過すると巣から脱出し、分散するのでその前に対策をします。

農薬紹介（プレバソフフロアブルのセルトレイ灌注処理）

キャベツにはアオムシ、コナガをはじめ様々な害虫が発生します。育苗は現在ではセルトレイが主流なり、従来の定植時に使用される剤は株元処理が主体ですので、多大な労力負担となっていました。

プレバソフフロアブル100倍液を育苗期後半～定植当日の1回に限り、育苗セルトレイ1枚当たり500mlの割合で灌注します。（平成21年県新しく普及に移す農業技術）

有機農産物生産上使える農薬

有機農産物の日本農林規格（JAS）の中では、有害動植物の防除を「耕種的防除、物理的防除、生物的防除又はこれらを適切に組み合わせた方法のみにより実施されている」ことを定義しています。そして農薬の使用は「農産物に重大な損害は生じる危険は急務している場合」であって「耕種的防除、物理的防除、生物的防除を適切に組み合わせた方法のみによっては、ほ場等における有害動植物を効果的に防除することができない場合」に認めています。通常の栽培で恒常的に使ってよいとは言っていないので注意異します。

主な農薬はなたね油乳剤（商品としてハツパ乳剤。なたね油を90%含有。きゅうりのうどんこ病やハダニ類に適用）銅水和剤（種々のものが多くの作物で普及している）

炭酸水素ナトリウム・銅水和剤（商品としてジーファイン水和剤、野菜類のうどんこ病などに適用。その他数十種類ありますのでお問い合わせ下さい。

平成23年水稻刈り取り予測

出穂期以降の平均気温を足し上げる「積算気温」により収穫開始日の予想を行っています。

品 種 名	登熟に要する積算気温	標高	出穂期	収穫開始予想日	備 考
あきたこまち	950	700m	8月1日	9月11日～	本年は、場所により生育に差が大きいので「帯緑色初歩合」等を見て判断することが重要です
コシヒカリ	1,000	500m	8月10日	9月23日～	

刈り遅れは「胴割れ米」の発生を助長します。計画的な収穫ができるようコンバインや乾燥施設の整備は早めに行い、ゆとりある収穫・乾燥調製の計画を立て、品質向上を第一とした作業を行いましょう。

【帯緑色初歩合による収穫期の判定】

- ・「帯緑色初歩合」とは緑色の籾が1穂内に占める割合のことです。
- ・1穂内の緑の籾が「10%」になったら収穫開始

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
近藤普及指導員（25-7157）